

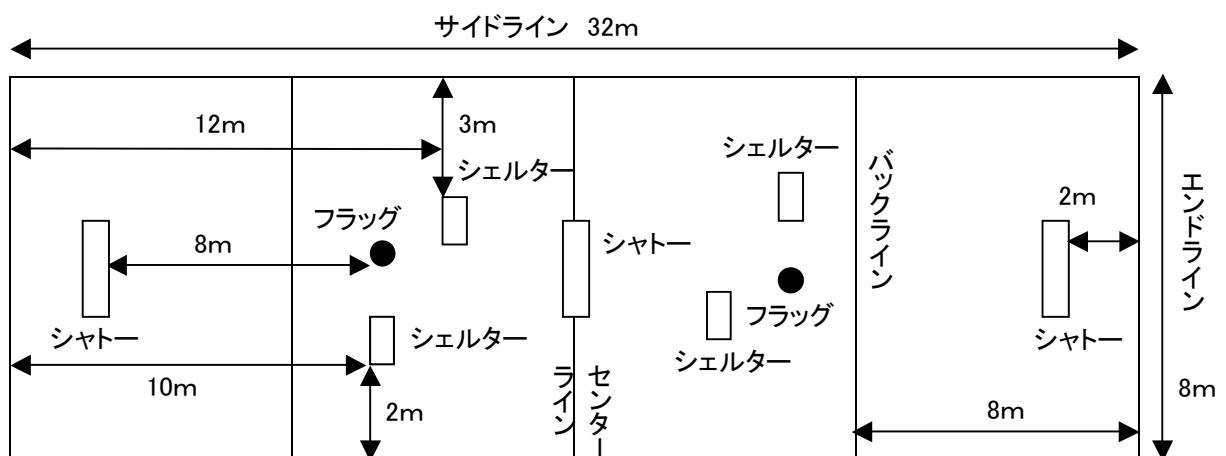
雪合戦競技規則(国分寺体協ローカルルール)

雪合戦は、競技者7名による2つのチームが定められたコート内において、相手チームの競技者全員を雪玉で当てるか、相手コートにあるチームのフラッグを抜くかで勝敗が決まります。

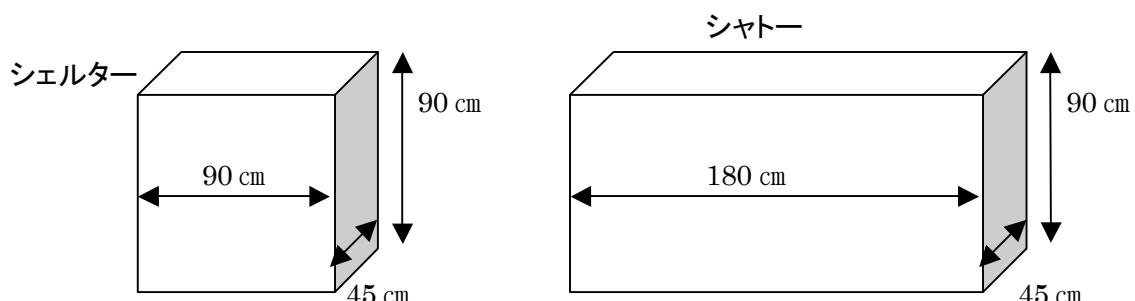
詳細ルールは日本雪合戦連盟の競技規則に準じ、国分寺体協ローカルルールとして以下の通りとします。

1.コートおよび試合場

コートの規格は下記の通りとする。



2.シャトー、シェルターの寸法



3.用具(本部で用意します)

- ①雪球 1チーム 1セット 90個(1試合 270個/チーム 必要)
(チームの運営員に製作をお手伝いいただきます)
- ②ヘルメット 1チーム 7個
- ③チームフラッグ(チームで準備したものでも良い)
- ④ポール(フラッグ立て) 2個
- ⑤ゼッケン 1番~7番 (監督は 0番)
- ⑥シェルター 4個
- ⑦シャトー 3個

4. ゲームの進め方

- (1) チームは、監督1名(ゼッケン 0番)、競技者14名以内とする。競技コートに入れるのは7名で、フォワード3名(ゼッケン1番～3番)、バックス4名(ゼッケン4番～7番)とする。
- (2) 競技時間は、1試合 1セット3分 3セットマッチ(2セット先取)とする。
- (3) チームは試合開始前にセンターラインをはさんで整列挨拶をする。
- (4) 試合前に競技者の代表によりトスをする。トスに勝ったチームはコートを選択する。セット終了後はコートチェンジを行う。3セット目は再びトスをして、コートを選択する。
- (5) 競技者は、片手に1個ずつの雪球を持ち、バックラインの直前に整列し競技開始の合図を待つ。残りの雪球は、すべて自コートのシャトー裏側に置く。
- (6) 主審の合図で競技を開始し、競技者は競技時間内(3分間)に雪球を用い相手チームの競技者に投げ当てる。または相手チームのチームフラッグを抜く。
- (7) 競技者が負傷または事故を生じたため競技が継続できなくなった場合は、主審または副審の合図により一時中断し、競技者の交代を認める。(再開後の競技時間は残り時間とする。)
- (8) 下記の場合、競技は終了する。
 - ① 相手チームフラッグを抜いた時点、
 - ② 一方のチームの競技者全員が、アウトになった時点
 - ③ 競技時間が終了した時点
 - ④ 一方のチームの競技者が4名以上、センターラインを越えて相手コートに入った時点

5. ルール

- (1) フォワード(3名)は、自コートバックラインより前のみで競技し、バックラインを越えて後方に戻ることはできない。
 - (2) バックス(4名)は、コート全てを使い競技することができ、シャトーから雪玉をフォワードへ手渡したり、運ぶこともできる。
 - (3) センターラインを越え相手コートに入れるのは3名以内とする。
 - (4) 雪球の受け渡しは、雪球を直接手渡すか、シェルターの上に置いて受け渡しを行う。
投げ渡すのは反則とする。
 - (5) 下記ケースの競技者はアウトとなり、直ちに近くのラインからコートを出て、自コートのエンドライン後方でそのセット終了まで待機しなければならない。
 - ① 雪球が直接体または着衣に当たった競技者。
 - ② 雪球の受け渡し時に、投げ渡された雪球を直接受け取った競技者。
 - ③ 自コートバックラインを越えて戻ったフォワードの競技者。
 - ④ サイドライン、エンドラインより外側へ踏み越した競技者。
 - ⑤ 一度に3個以上の雪球を持ち運んだ競技者。
 - ⑥ 雪地面に落ちている雪球を拾って使用した競技者。
 - ⑦ コート外のアウト競技者から雪球を受け取り、使用した競技者。
- * ラインを越えた反則の判定基準は、片足でもラインを踏み越した場合とする。

(6) 次の場合は、アウトにならない。

- ① 雪球が一度、雪地面及びシャトー、シェルターにふれてから体または着衣に当たった場合。
- ② 雪球が競技者に当たって、連続して別の競技者に当たった場合の後の競技者。
- ③ 雪球が碎けて競技者に当たった場合。

6. 競技者交替

(1) 競技者の交替は、セット間のみ行うことが出来る。交替人数の制限はしない。

(2) 一度交替した競技者でも、次のセットで再び競技に戻ることができる。

(3) 競技者が負傷、事故等で退場しなければならぬ場合は、競技途中でも交替を認める。

7. 勝敗の判定

(1) 下記の勝チームは10ポイント、負けチームはポイント0とする。

- ① 時間に内に、フラッグを抜き取った場合
- ② 時間に内に、相手競技者全員をアウトにした場合
- ③ 一方のチーム競技者がセンターラインを越えて、相手コートに4名以上入った場合

(2) 競技時間内に勝敗が決しないときは、競技終了時の残り競技者1人1ポイントとして与え、残り競技者の多いチームを勝ちとする。

(3) 2セット先取したチームを勝ちとし、引き分けが2セットある場合は1セット取得しているチームを勝ちとする。

(4) 取得セットが同数の場合は、3セット終了時点で各チームのポイント合計を算出し、ポイントの多いチームを勝ちとする。

(5) 3セット終了しポイントが同数で勝敗が決しない場合は、各チームの代表競技者3名によりジャンケンで決定する。

8. 反則

監督、または競技者が次の行為を行なったときは反則とし、その試合中該当者は退場とする。

(1) 危険な行為。

(2) アウトになった競技者が、競技の妨害をした場合。

(3) 審判の判定に抗議した場合。

(4) 相手チーム、審判員に対し無作法、侮辱的な行為をした場合。

(5) チームが正当な理由なく競技の開始を拒み、または遅延させた場合。

9. 競技役員

(1) 審判委員

- ① 審判員は主審、副審とする。
- ② 主審はコートにおける審判および競技の進行を図り、勝敗の宣告をする。
- ③ 副審は、主審の補佐をする。
- ④ 主審および副審は、判定にあたっては同等の権限を有する。

⑤主審、副審の合図は吹笛により行う。

主審の吹笛は、競技開始・競技中断・競技再開・競技終了とし、副審の吹笛はチームフラッグを抜いた時、および競技中断の時とする。

(2)時計係

競技時間の計時にあたり、主審に競技時間終了の合図をする。

(3)記録係

競技結果の記録および主審の勝敗判定補助を行なう。

(4)運営委員

チームの召集、確認を行ない、試合の運営と雪球の製造を行なう。

10. チーム役員の役割

(1)監督

①競技中はコートの外、主審の反対側、センターライン延長上より自コート側で、副審より後方にて審判の判定妨害にならない限り、競技者に指示を出すことが出来る。

②試合終了後、主審に競技に関する質問をすることが出来るが、審判員の判定に異議を申し立てることは出来ない。

(2)運営員

本部の運営委員と協力し、雪球の製造にあたる。

以 上